



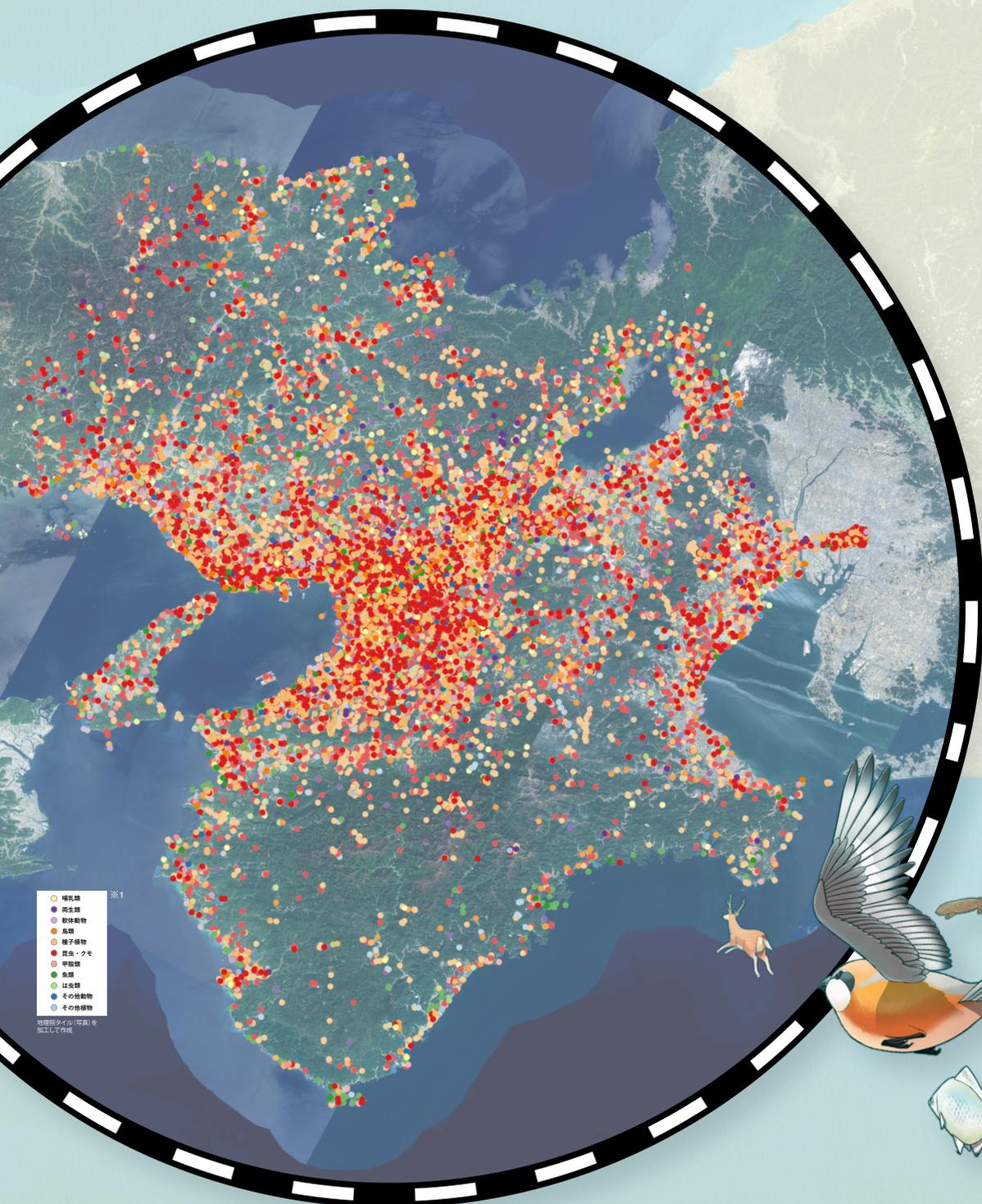
# 関西 生きもの駅すぽ

Kansai Ikimono Ekisupo

2024年4月26日から6月30日の間、関西地方をフィールドとした、西日本最大級の市民科学による生物調査を実施しました。生物の発見情報は、ネイチャーポジティブ社会実現に向けた、生物多様性情報の基盤として活用いたします。

**157,424件**  
※2  
期間内に見つけた件数

**12,141種類**  
※2  
期間内に見つけた種類



- ※1
- 哺乳類
  - 両生類
  - 軟体動物
  - 鳥類
  - 種子植物
  - 昆虫・クモ
  - 甲殻類
  - 魚類
  - は虫類
  - その他動物
  - その他植物

地理院タイル(写真)を加工して作成

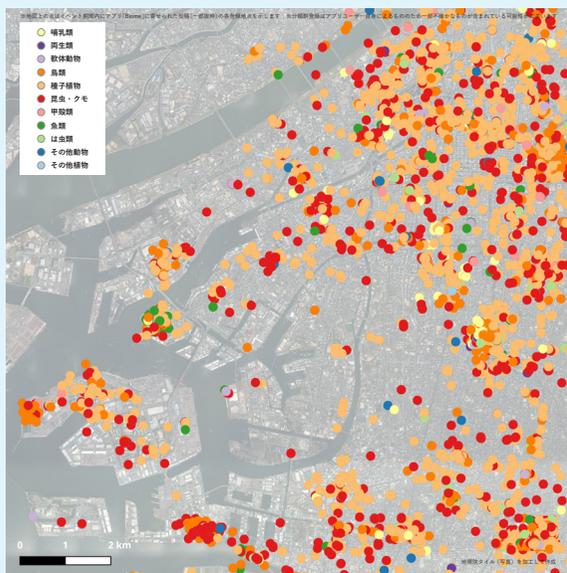


※1 地図上の点はイベント期間内(2024年4月26日~6月30日)に大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県、三重県、愛知県(一部)からアプリ「Biome」に寄せられた全投稿の各登録地点を示します。分類群登録はアプリユーザー自身によるものため一部不確かなものが含まれている可能性があります

※2 上記の数値はイベント期間内(2024年4月26日~6月30日)に大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県、三重県、愛知県(一部)からアプリ「Biome」に寄せられた全投稿を集計したものです。制作:一般社団法人関西イノベーションセンター 監修:株式会社バイオーム

# 調査で分かった！関西の自然ピックアップ

## ミナミ・ベイエリア（大阪府）



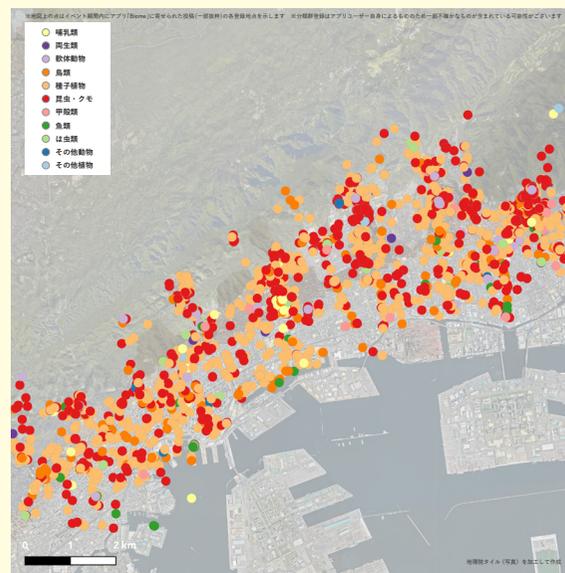
### 繁華街に広がる都会のオアシス

大阪・ミナミを代表する商業施設「なんばパークス」には、日本最大級の都市型屋上公園「パークスガーデン」があります。ここには市街地でありながら季節の鳥類や昆虫が飛来し、今回の調査でも多くのいきものが発見されました。また、大阪湾に面するベイエリアは、干潟生態系の回復・保全を目的とした人工干潟が整備され、野鳥や魚介類の



サンクチュアリとなっています。「野鳥園臨港緑地」では、干潟を訪れるシギやチドリの仲間などを観察することができます。

## 六甲エリア（兵庫県）



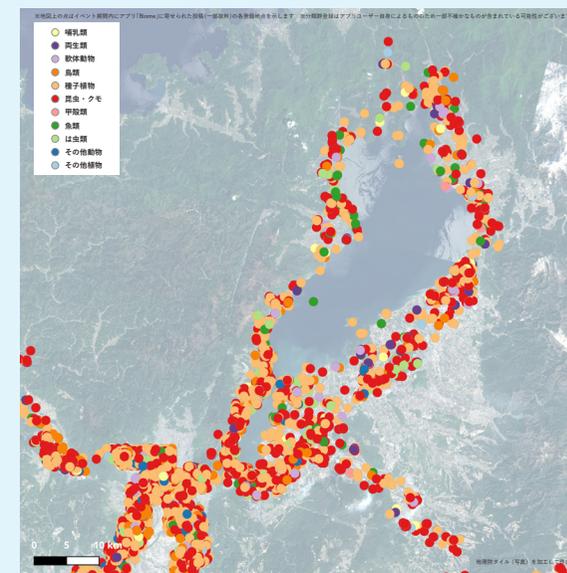
### 水と緑が暮らしのすぐそばに

神戸市南部に位置する六甲エリアは、北には六甲山と摩耶山、南には大阪湾が広がる地域です。水と緑が織りなす豊かな自然が見られるこのエリアには、河川を中心に、水鳥や昆虫、は虫類など、様々ないきものが発見されました。また、人の暮らしのすぐ近くに自然が広がっているのも、六甲エリアの特徴です。公園の街路樹や庭先、時には、



人工物のちょっとしたすき間でもいきものが見つかっており、普段の生活の中で密度の高い自然体験ができます。

## 琵琶湖エリア（滋賀県）



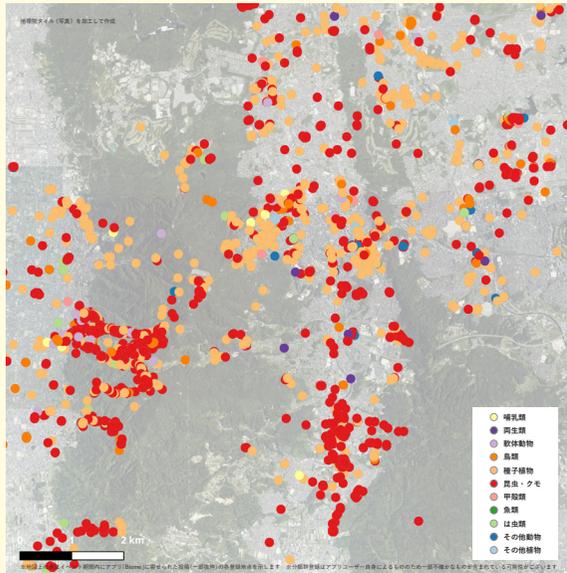
### 関西の水がめが育む自然と歴史文化

日本最大の淡水湖・琵琶湖は、まさに「いきものたちの楽園」と言える場所です。今回の調査でも、魚類や両生類、水生昆虫などの河川水辺を代表する動植物が多く発見されました。「固有種」と呼ばれる琵琶湖周辺でしか見られないいきものも発見され、地域固有の生態系を守る重要な場であることが再確認されました。また琵琶湖の水産資源として重要な魚介類も多く発見されました。関西の歴史文化の発展には琵琶湖の自然が必要不可欠であることが、調査を通じて改めて分かりました。



関西には地域ごとに様々な自然環境があり、そこではその地域ならではのいきものや風景、文化が見られます。本ページでは今回の調査で分かったおすすめの実験エリアを紹介します。

## 生駒エリア（奈良県 / 大阪府）



### ノスタルジックな街と里地里山

奈良県生駒市と大阪府東大阪市との境にある生駒山の周辺は、レトロな街並みと自然が魅力の地域です。日本最古のケーブルカーで生駒山を登れば、古き良き遊園地や石畳の参道に辿り着きます。生駒には古くからの日本の原風景である里地里山の自然が広がっています。今回の調査でも、少し奥まった自然で見られるような昆虫や鳥類、植物



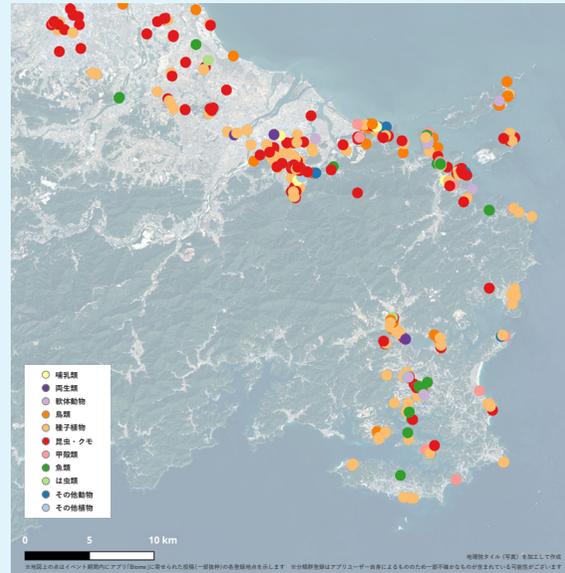
©a\_totoro



©a\_totoro

が多く発見され、かつての里地里山を想起させる、ノスタルジックな生態系が育まれていることが分かりました。

## 伊勢・志摩エリア（三重県）



### 豊饒の海が生んだ自然の恵み

伊勢・志摩の沿岸には、ギザギザに入り組んだ地形が続く「リアス式海岸」が見られます。波が穏やかな内湾には豊かな沿岸生態系があり、特に海岸性植物を身近に観察できます。海岸性植物は現在減少傾向にあり、当エリアがこうした植物の貴重な生育地となっていることが確認されました。また鳥羽市周辺は「豊饒の海」とも呼ばれるほど魚類の種類が豊富なことでも知られています。今回の調査でも、その自然の恵みを写真越しでも感じることができる発見が多く集まりました。



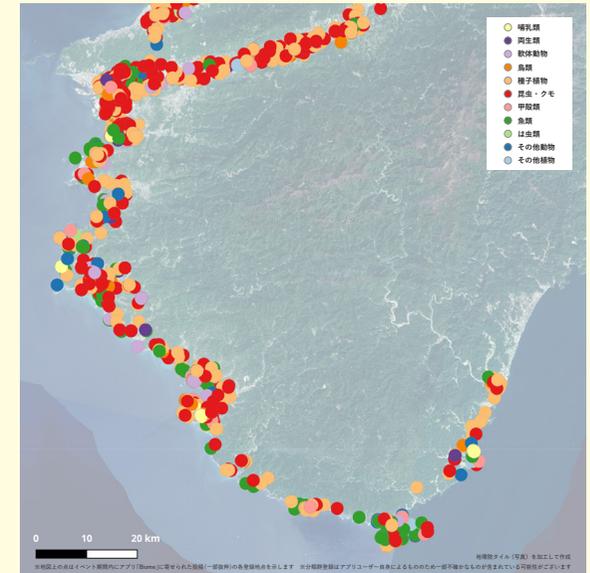
©SHIN916



©kimis

魚類の種類が豊富なことでも知られています。今回の調査でも、その自然の恵みを写真越しでも感じることができる発見が多く集まりました。

## 紀州エリア（和歌山県）



### 関西が誇る屈指のいきものエリア

大阪湾から太平洋にかけての沿岸地域が広がっている紀州エリアは、ダイバーをはじめとする海の自然愛好家に絶大な人気があるエリアです。ここには砂浜・岩礁環境を好む動植物が多く生息・生育しており、タイドプールなどの磯の自然観察にうってつけです。また当エリアは、日本でもトップレベルで人気の高い動物園や水族館、地元の海の幸が満喫できる漁港、広大なジオパークなどを有し、関西のいきものを存分に楽しめる屈指の観光地となっています。



©しくじも



©しくじも

の幸が満喫できる漁港、広大なジオパークなどを有し、関西のいきものを存分に楽しめる屈指の観光地となっています。

このいきものを探せ！

# いきものクエスト in 関西

関西いきもの駅スポでは、関西で見られる様々な動植物の分布を網羅的に把握するため、テーマに沿って様々ないきものを探す市民科学調査「いきものクエスト」を実施しました。その中でも特に注目が集まった3つの調査の結果を紹介します。



©つばめみるひと



©Puchina



ヒメムカシヨモギ ©ABS@アビエス



ナガミヒナゲシ ©hsh2006



ユウゲシヨウ ©やねこ



ムラサキカタバミ ©inabekko



©りなへる



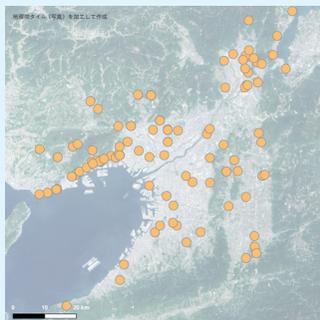
©LUCKY-13

## 駅ツバメ調査

夏に近づくと、ツバメなどの一部の鳥は、カラスなどの天敵から卵やヒナを守るため、あえて人の出入りが多い駅などに巣をつくります。この調査では、駅周辺で見られるツバメを「駅ツバメ」と称し、その発見情報を集め、どの地域で駅ツバメの発見が多いか、駅ツバメが多い駅の周辺にはどんな特徴があるのかを調査しました。

調査の結果、駅ツバメは関西一円に点在しているものの、六甲地域（兵庫県）や京都市（京都府）市街地で特に発見の密度が高いことが分かりました。ツバメの営巣には、エサとなる昆虫が豊富に生息する場所が近くにあること、そして巣作りに必要な土と草を採取できる場所が近くあることが重要です。駅ツバメが多い駅は、こうしたツバメが好む自然環境の近くに位置していると考えられます。実際、六甲地域や京都市市街地は、中小規模の河川水辺環境がほどよく点在しているという特徴があります。

都市化が進み、自然との接点が消滅しつつある現代において、こうした駅ツバメが好む自然を守っていくことは、心豊かな街づくりにもつながっていくかもしれません。

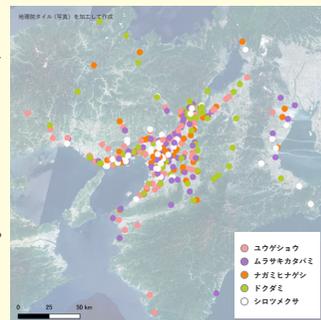


※地図上の点はイベント開催中に調査地区からアプリ「Bema」に寄せられたツバメの発見情報に基づいており、発見時刻を示します。 ※発見時刻はアプリユーザー自身によるため一部不明なものがある可能性があります。

## 鉄道みちくさ調査

線路沿いの道や線路の中をよく観察すると、そこには様々な植物が生い茂っている様子が見られます。この調査では、そんな鉄道の周りで見られる植物を「鉄道みちくさ」と称し、沿線周辺で見られる植物の種類や地域性などを調査しました。日本の交通インフラ整備が本格化した明治時代、かつて「鉄道草」と呼ばれるほど線路周辺でよく見られていたのは、ヒメムカシヨモギでした。全国的に鉄道が開通されてから約150年経った今、どのような鉄道みちくさが発見されたのでしょうか。調査の結果、特に発見が多かったのは、ムラサキカタバミやナガミヒナゲシ、ユウゲシヨウ等でした。一方、かつてよく見られていたヒメムカシヨモギの発見は、今回の調査ではわずかでした。上記で見られた植物と植生が変わりつつあるのか、それとも調査期間中は開花時期でなかったため、あまり目につかず、発見が少なかったのかもしれませんが。

このように、一見大きな変化が無いように感じる植物も、時間の経過や土地開発等によってだんだんと変化していきます。こうした変化を広域多点的に観察できるのも、市民科学ならではの利点です。ぜひ自分の身近で見られる鉄道みちくさを記録してみてください。



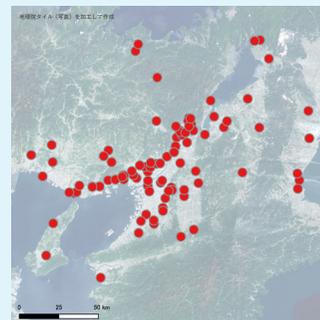
※地図上の点はイベント開催中に調査地区からアプリ「Bema」に寄せられた植物の発見情報に基づいており、発見時刻を示します。 ※発見時刻はアプリユーザー自身によるため一部不明なものがある可能性があります。

## ひっそりインベーター調査

この調査では、今はまだそこまで話題になっていないですが、ひっそりと分布を広げつつある外来種を「ひっそりインベーター」と称し、18種類の対象種を指定したうえで調査を行いました。こうした外来種はまだ全国的に重大な被害は確認されていないものもありますが、生態や分布の情報を蓄積し、状況を把握する必要があります。特に今回注目したのは、タイワンタケマバチです。

本種は2006年以降、関西でも急速に分布を広げている外来のクマバチです。今回の調査では、約2か月間という短期間ながら100件を超える発見が関西の各地で報告され、すでに広く定着しつつあることが分かりました。タイワンタケマバチは枯れた竹に穴を開け、中で営巣する習性があります。野外にある竹ぼうき等にも営巣するため、知らぬ間に竹ぼうきに穴が空いてしまっている時は、近くにタイワンタケマバチがいるかもしれません。

タイワンタケマバチの分布が拡大することにより、在来のクマバチとのエサの競争が起きることが懸念されています。まだ重大な被害は報告されていませんが、引き続きたくさんの方で分布の動向を観察する必要があります。



※地図上の点はイベント開催中に調査地区からアプリ「Bema」に寄せられたタイワンタケマバチの発見情報に基づいており、発見時刻を示します。 ※発見時刻はアプリユーザー自身によるため一部不明なものがある可能性があります。